令和６年度
福知山市

男女共同参画に関する
市民意識調査報告書

概要版

令和７（2025）年３月
福知山市

福知山市男女共同参画推進条例（抜粋）

第３条　基本理念

（1）男女が、性別による差別的取扱いを受けることなく、互いにその人権を尊重すること。

（2）男女が、個人としての尊厳が重んじられ、一人一人がその個性と能力を社会のあらゆる分野で発揮できる機会が確保され、自立した個人として自己の意思によって行動し、かつ、責任を負うこと。

（3）社会における制度又は慣行が、性別による固定的な役割分担等によって、男女の社会における活動の自由な選択に対して影響を及ぼすことのないよう配慮されること。

（4）男女が、社会の対等な構成員として、社会のあらゆる分野における方針の立案及び決定に共同して参画する機会が確保されること。

（5）家族を構成する男女が、互いの人格を尊重し、相互の協力と社会の支援の下に、家庭生活における活動について家族の一員としての役割を果たし、かつ、当該活動以外の活動と両立ができるようにすること。

（6）学校教育その他の生涯にわたる教育において、性別にとらわれず個人としての能力と適性がはぐくまれることを基本とした取組が図られること。

（7）男女が互いの性についての理解を深め、妊娠、出産その他性と生殖に関して、自己決定が尊重され、かつ、生涯を通じて健康な生活を営む権利が確保されること。

（8）男女共同参画の推進は、国際社会における取組との協調の下に行われること。

平成１８年１０月１日施行

●調査概要●

■ 調査の目的

「第４次福知山市男女共同参画計画はばたきプラン２０２１」を見直し、市の実情にあった後期計画策定の基礎資料とするために、男女共同参画に関する市民意識調査を実施しました。

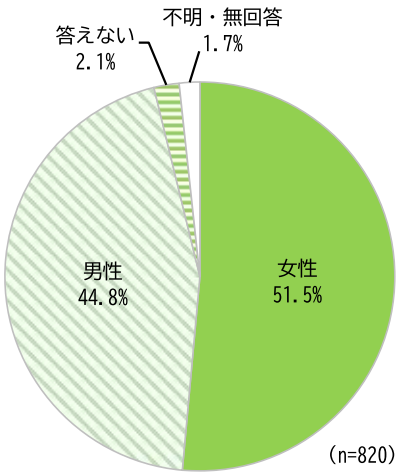
■ 調査の実施方法と回収状況

調査対象者	市内に在住の満 16 歳以上の市民（無作為抽出）　1,600 人
調査期間	令和６（2024）年９月４日（水）～　令和６（2024）年９月 30 日（月）
調査方法	郵送による配布、郵送または Web による回答
回収状況	有効回収数　820 件　　有効回収率　51.2%

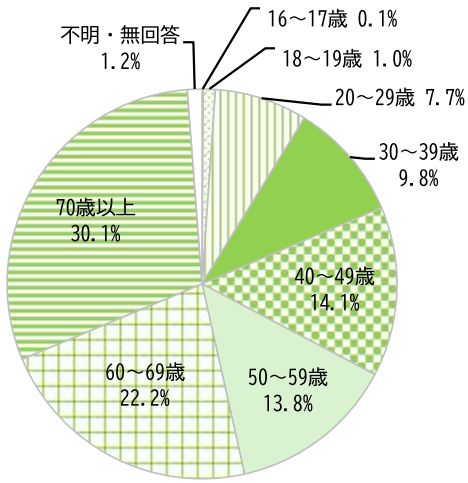
※「n」は回答割合算出の母数です。割合は四捨五入の関係で合計が 100.0%とならない場合があります。
その他、不明（無回答）はグラフから除いている場合があります。

■ 回答者の属性

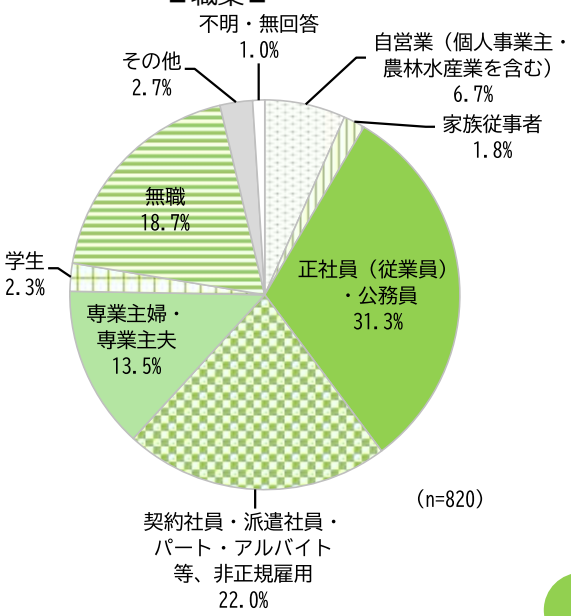
■性別■



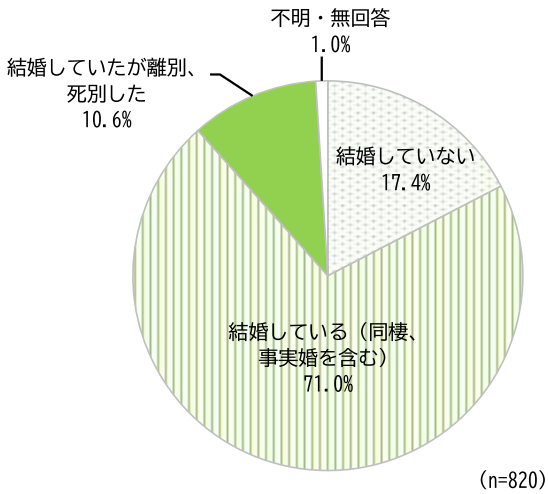
■年齢■



■職業■



■婚姻状況■　(n=820)



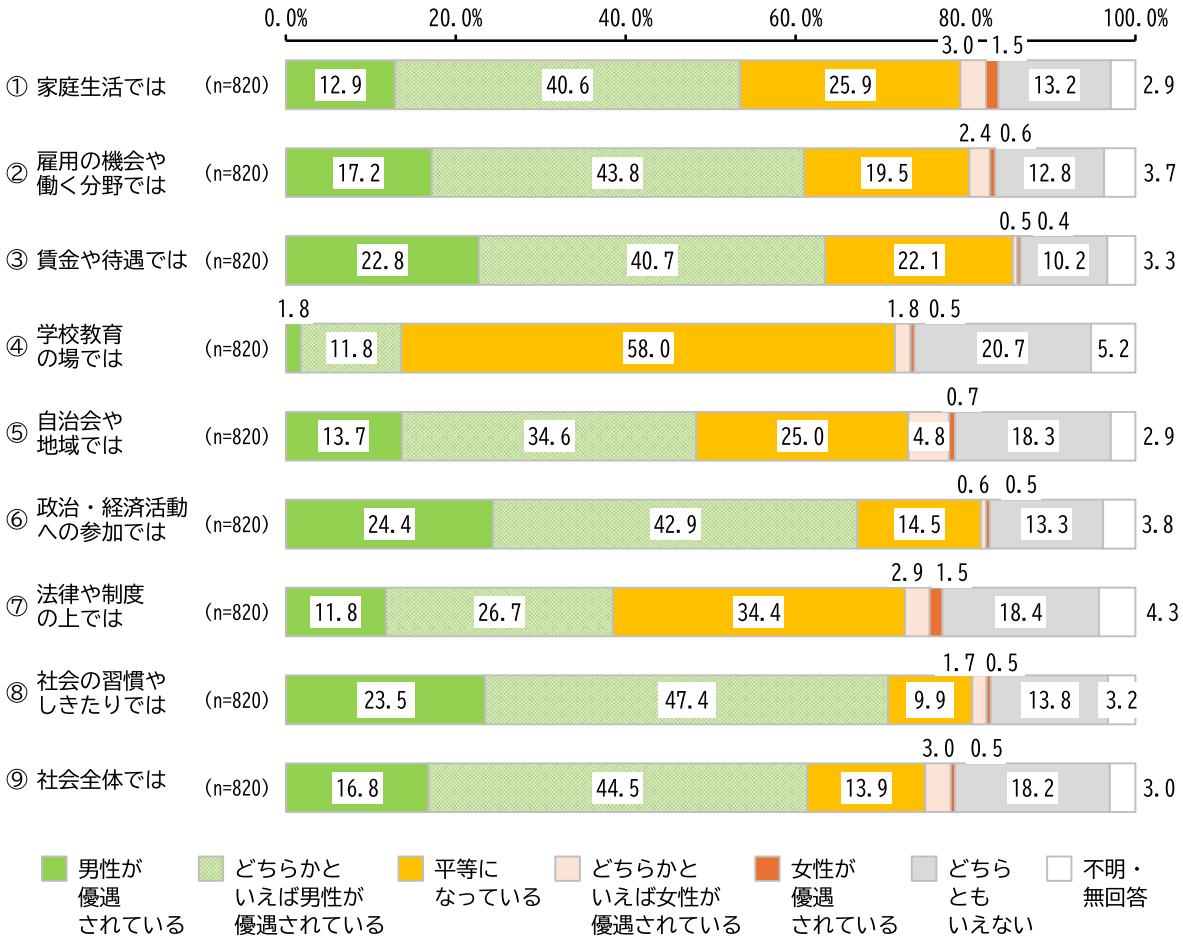
●調査結果●

1. 男女平等感と性別にもとづく意識

●社会における男女不平等感は根強い

社会の様々な分野における男女平等感は、「学校教育の場」以外すべて男性が優遇されていると感じる人の割合が多く、特に多い「社会の習慣やしきたり」では７割を超えています。

■社会の各分野における男女平等感■



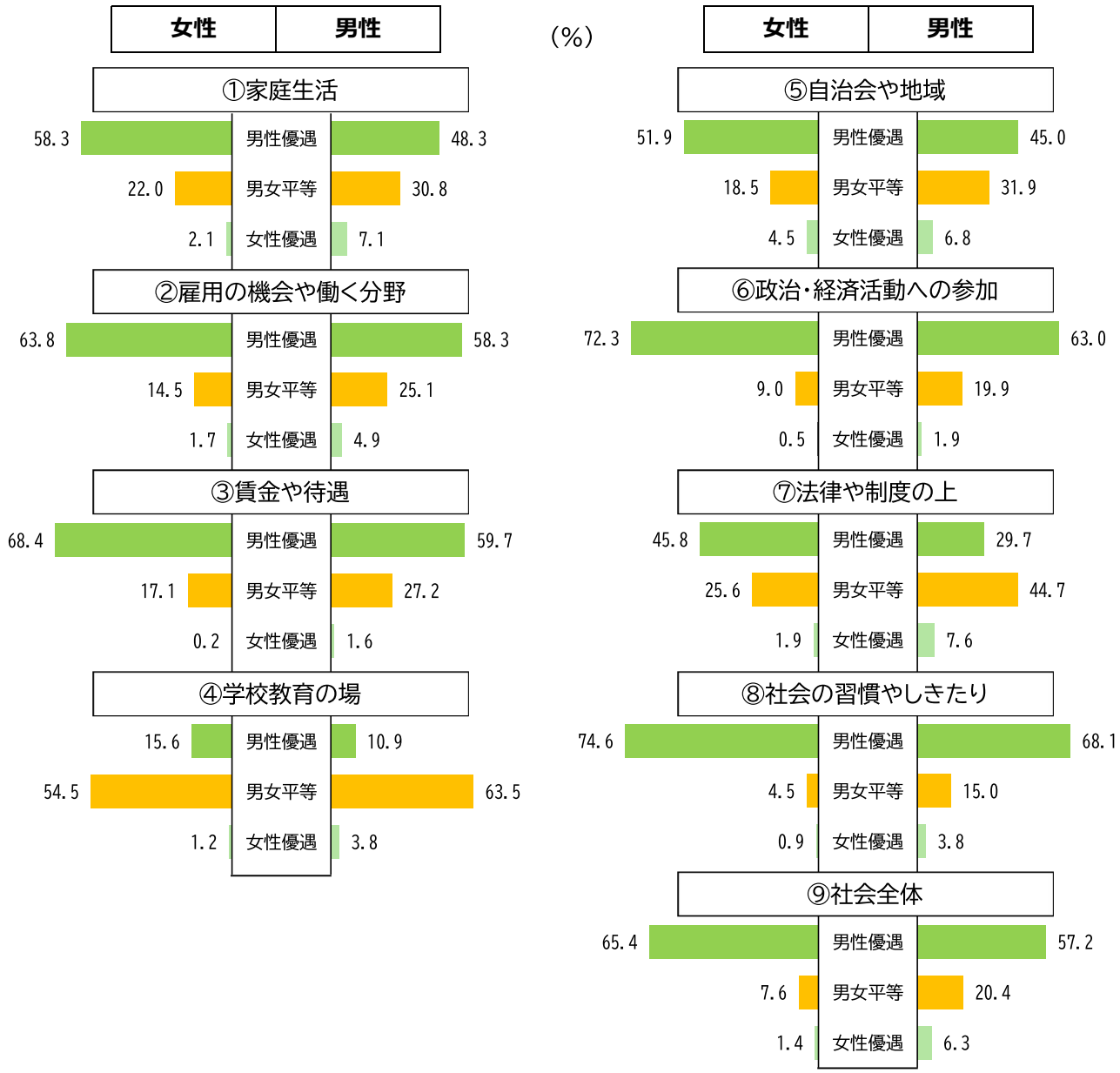
社会全般で、様々な男女平等の取組が進められていますが、本市のこれまでの調査と比べても不平等と感じる人がいまだ多い状況です。日本のジェンダーギャップ指数※1 が他の先進国と比べてきわめて低いことなどが知られるようになり、社会全体が男女平等になっていないと認識する人が多くなりました。

※1：ジェンダーギャップ指数：世界経済フォーラムが、経済、教育、健康、政治分野のデータをもとに算出しています。日本の順位は 118 位／146 か国（2024 年発表）で、政治と経済分野の男女格差が影響して、長年低位にとどまっています。

●社会における男女平等感に男女での意識の違い

いずれの分野でも女性より男性の方が男女平等と感じる割合が多く、男性より女性の方が男性優遇と感じる割合が多くなっています。女性と男性では、社会の状況に対する認識のギャップがみられます。

■性別　社会の各分野における男女平等感■



社会における男性優遇感が根強い背景には、アンコンシャス・バイアス（性別にもとづく様々な固定観念や無意識の思い込み）が影響しています。

アンコンシャス・バイアスは、誰もが持つものですが、思い込みによる決めつけや判断は、時として相手に不快感を与えたり、傷つけたりすることがあります。また、自分自身も固定観念にとらわれて選択肢を狭めてしまうこともあります。

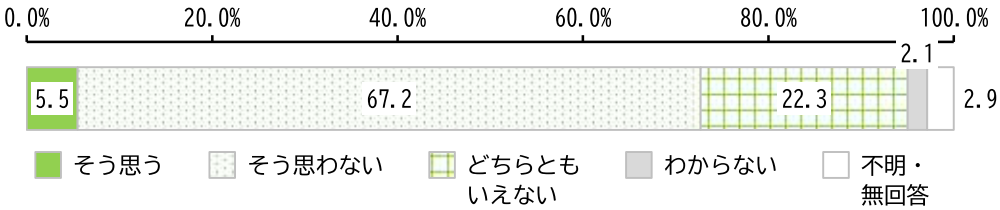
一人ひとりが、様々な場面で無意識に思い込みで決めつけていないか考えてみましょう。

●性別にもとづく無意識の思い込みに気づく

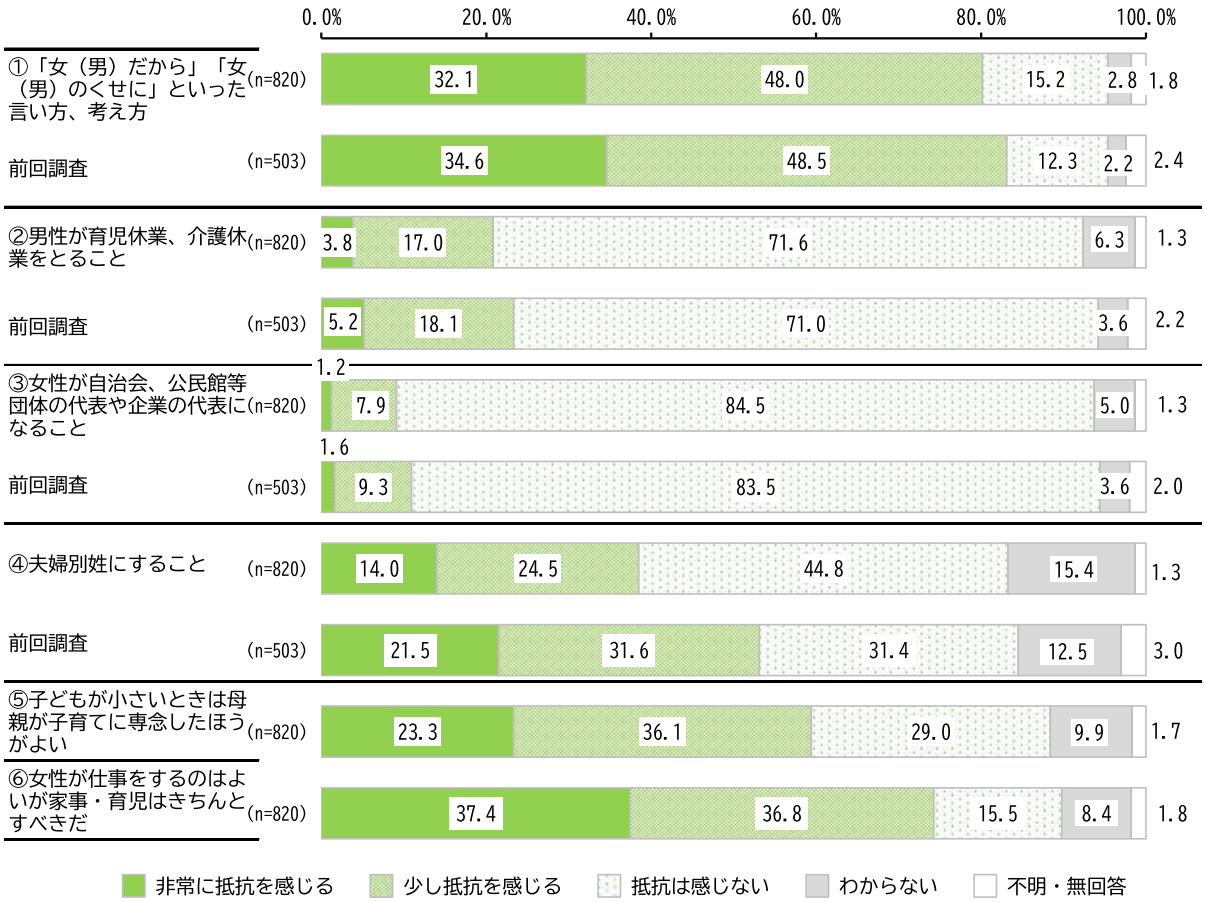
「男は仕事　女は家庭」といった性別役割分担意識のほか性別にかかわる考え方をたずねました。性別にかかわる考え方の６項目は、①⑤⑥は性別によって役割を決めつける内容、②③④は男女平等に関する内容です。性別役割分担意識に否定的な人や性別によって役割を決めつける考え方には抵抗を感じる人の割合が多くなっています。

性別によって役割を決めつけることは、女らしさ・男らしさの強要や性別役割分担意識につながる考え方です。⑤は「三歳児神話※２」と言われる考え方ですが、女性に育児負担が偏ることにつながります。一方で、男女平等の考え方に抵抗を感じる人もいます。「男性が育児休業、介護休業をとること」では約２割、「夫婦別姓」には約４割が抵抗を感じています。

■「男は仕事　女は家庭」という考え方について■



■ジェンダーにもとづく様々な意識■



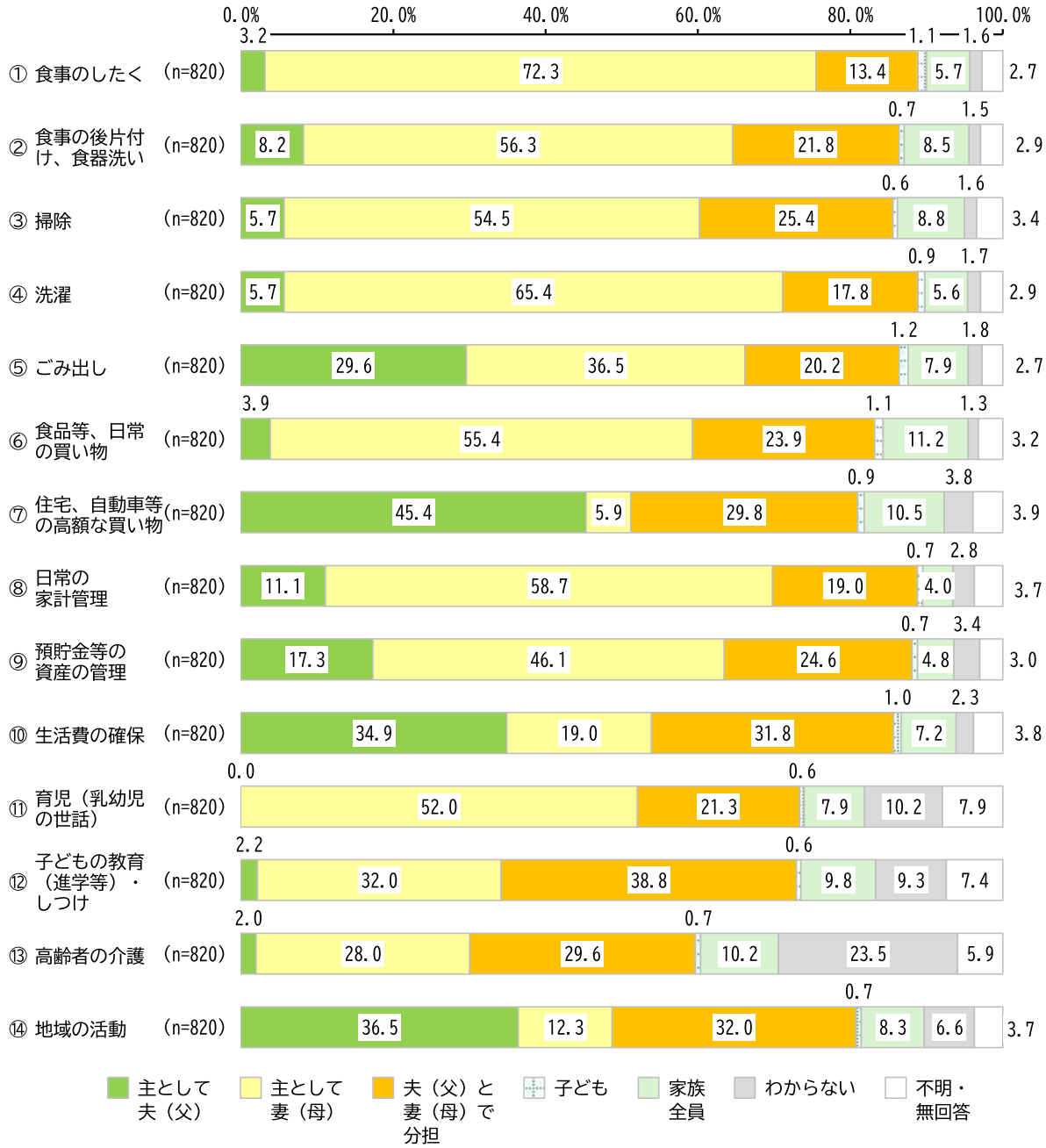
※２：三歳児神話…子どもが三歳頃までに母親のもとで適切に育てられなければ、その後の発達に悪影響があるという考え方。乳幼児期に大人との愛着関係は必要ですが、それは母親だけとは限りません。

2. 家庭における役割

●男女がともに役割を担うこと

「男は仕事　女は家庭」という考え方を約７割の人が否定していますが、家庭における実際の役割分担は性別による偏りがみられます。ごみ出し以外の家事と乳幼児の世話では、主として妻（母）が担っている割合が多くなっています。

■家庭における役割分担の実態■



家事・育児の負担が女性に偏っていることは、女性が職業を持つうえでの大きな課題となり、正社員としての就労を希望していてもパート等を選択する女性が多くなることにつながっていきます。一方で、生活費の確保は男性に偏っている傾向があります。生活費の確保を男性だけに頼ることは、社会経済状況の変化や家族の事故、病気などに直面した時の対応に不安を残します。

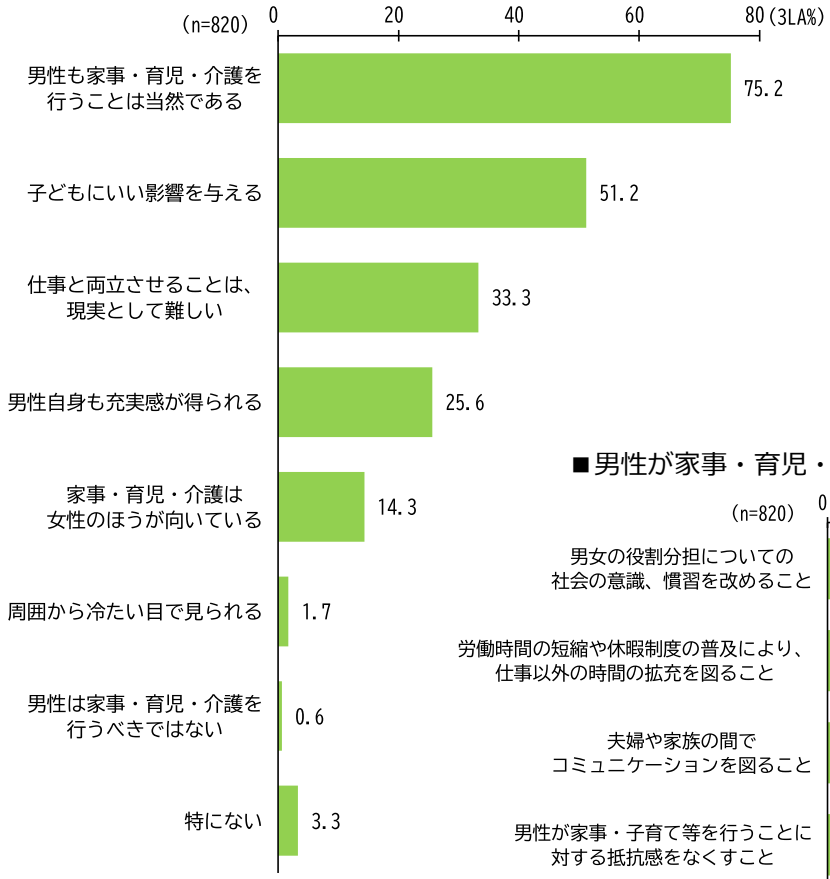
男女がお互いの信頼のもと、家計収入も家事・育児もともに担うことが安心して生活を送ることにつながります。

●男性の家事･育児･介護への参画には意識変革と職場環境が必要

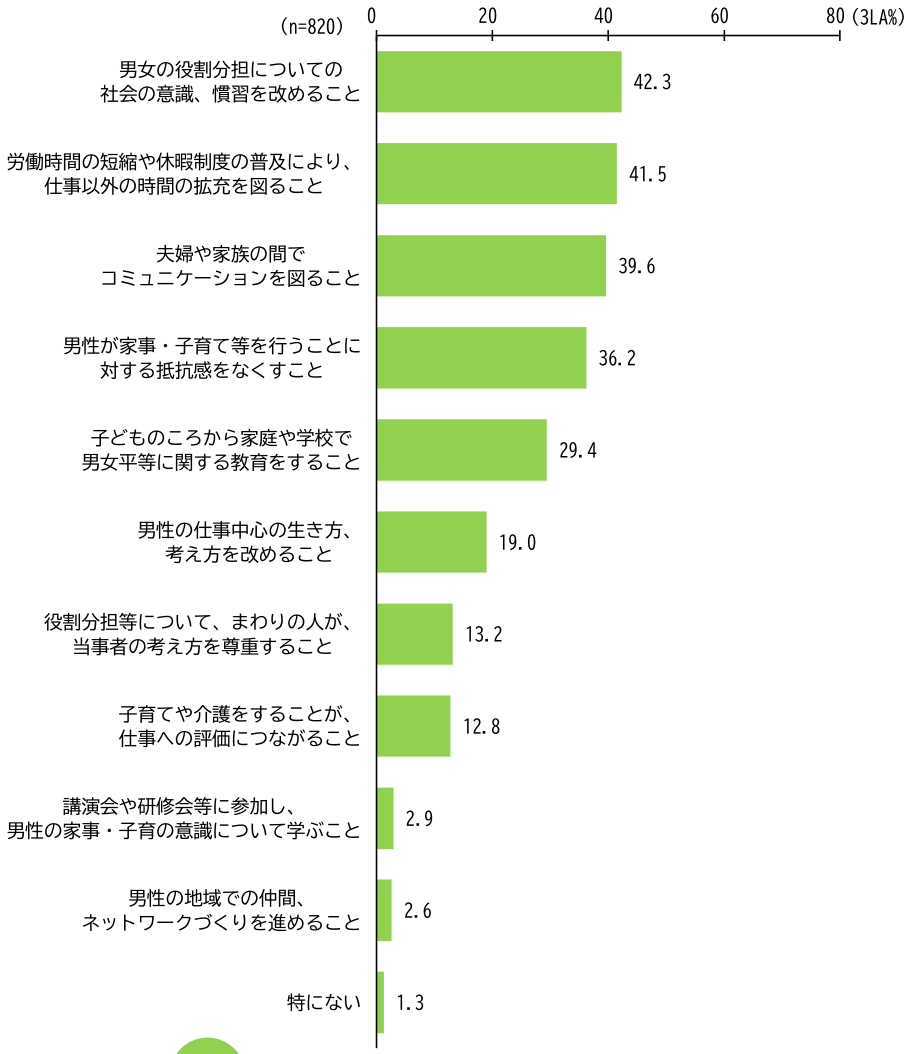
「男性も家事・育児・介護を行うことは当然」、「子どもにいい影響を与える」など男性の家事・育児を肯定的にとらえる人の割合が多い一方で、「男性が仕事と両立させることは現実として難しい」という回答も３割を超えており、男性の家事・育児・介護の参画に現実問題としての課題がうかがえます。

男性が家事・育児・介護を行うために必要なことについては、「社会の意識、慣習を改めること」、「労働時間の短縮や休暇制度により仕事以外の時間の拡充」、「夫婦や家族間のコミュニケーション」がほぼ同じ割合となっています。

■男性が家事を行うことについての考え■



■男性が家事・育児・介護を行うために必要なこと■



【男女の家事時間】

６歳未満の子どもを持つ共働き夫婦の家事関連時間をみると、妻が 6 時間 33 分に対して夫は 1 時間 55 分と大きな差があります。

欧米諸国でも女性の方が男性より家事関連時間が長くなっていますが、日本では、男女の差がきわめて大きくなっています。

総務省令和３年社会生活基本調査より

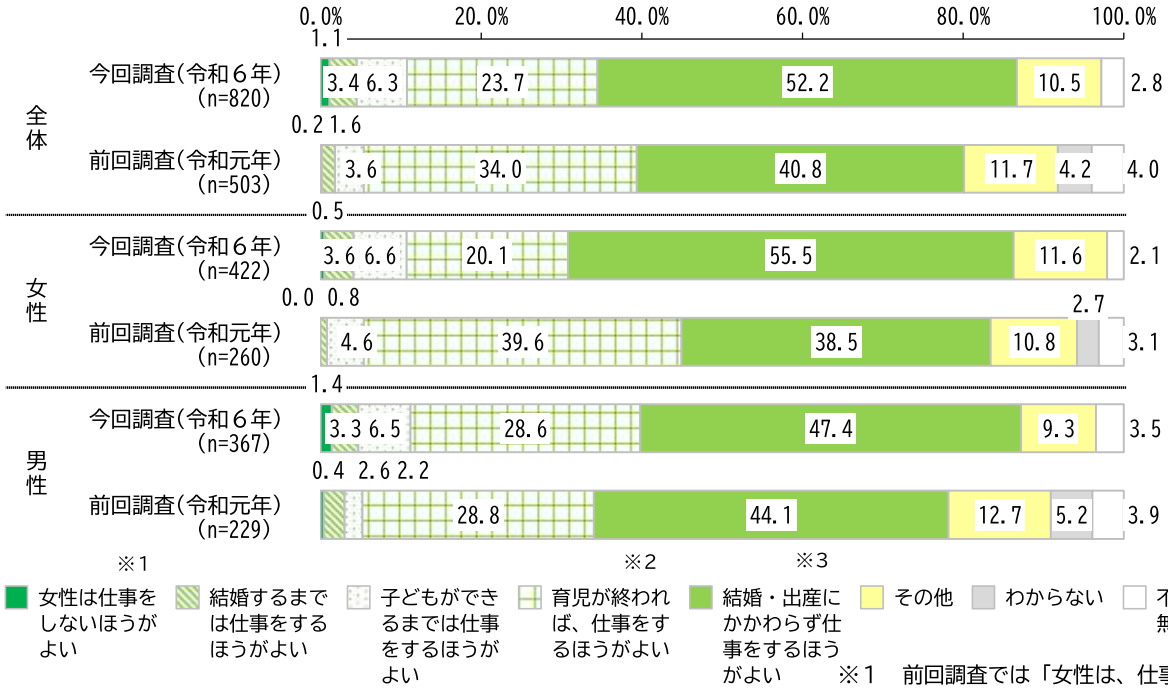
3. 女性と仕事

●女性の継続就労を肯定する意識が拡大

女性が仕事をすることについて、「結婚・出産にかかわらず仕事をするほうがよい」が前回調査と比べて全体では 10 ポイント以上、女性では 17.0 ポイントの大きな増加がみられます。

一方で、女性が働き続けるうえで、家事・育児負担が大きいことを８割近くの人があげています。

■女性が仕事をすることについての考え（経年比較）■

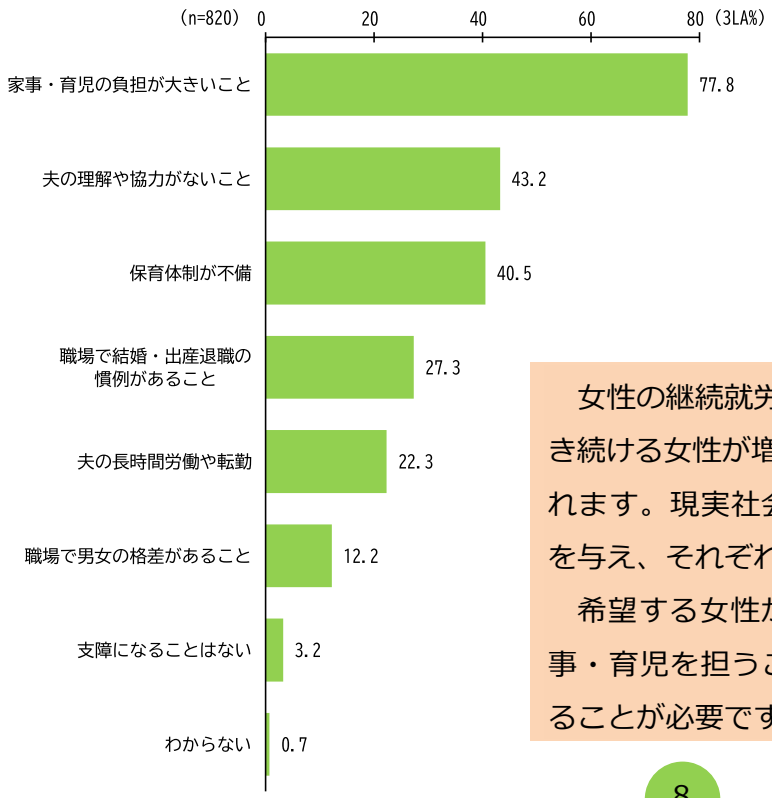


※１　前回調査では「女性は、仕事をもたない方がよい」

※２　今回調査は「育児が終われば、パート・アルバイト等非正規雇用で仕事をするほうがよい」と「育児が終われば、正規雇用で仕事をするほうがよい」の合計、前回調査では「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をする方がよい」

※３　前回調査では「子どもができても、ずっと仕事を続ける方がよい」

■女性が働き続けるうえでの支障■



女性の継続就労を支持する人が増えたことは、現実に働き続ける女性が増加していることが影響していると考えられます。現実社会のありようと人々の意識は相互に影響を与え、それぞれが変化していくものといえます。

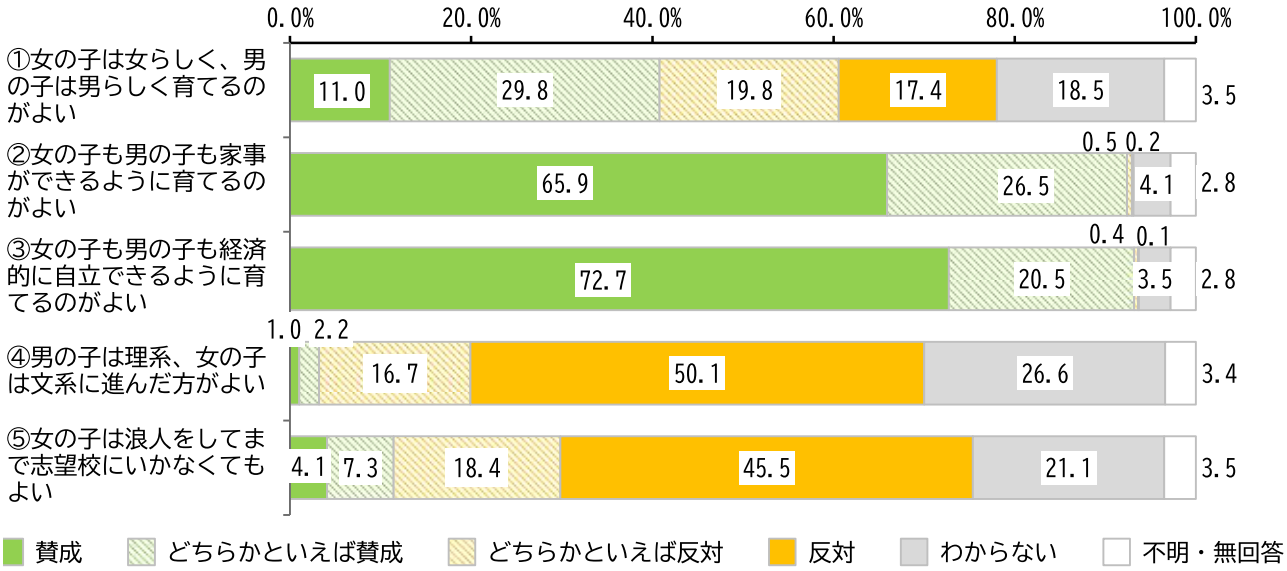
希望する女性が働き続けるためには、男女がともに家事・育児を担うことや、誰もが働きやすい職場環境にすることが必要です。

4. 子どもの教育

●女らしさ、男らしさを肯定する一方で、子どもの育て方の考えは男女平等の傾向

「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい」に対しては、賛成と反対がほぼ同程度の割合ですが、「女の子も男の子も家事や経済的自立をできるように育てるのがよい」と考える人が約９割を占めています。また、「女の子は浪人してまで志望校にいかなくてもよい」に反対する人の割合が６割を超えています。

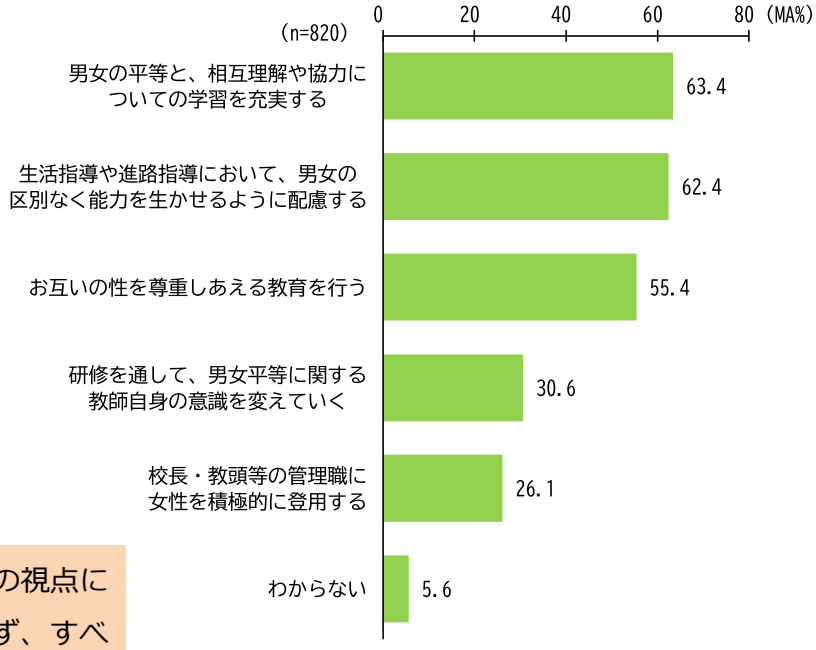
■子どもの育て方についての考え■



●学校教育では男女の区別なく平等に能力を生かせる配慮が必要

男女共同参画を進めていくために学校教育で必要なことについて、「男女平等の学習」、「男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」、「お互いの性を尊重する教育」をあげる割合が多くなっています。

■学校教育に望むこと■



幼少期から男女平等・男女共同参画の視点に立った教育を推進し、性別にかかわらず、すべての子どもが多様な選択ができるよう支援することが必要です。

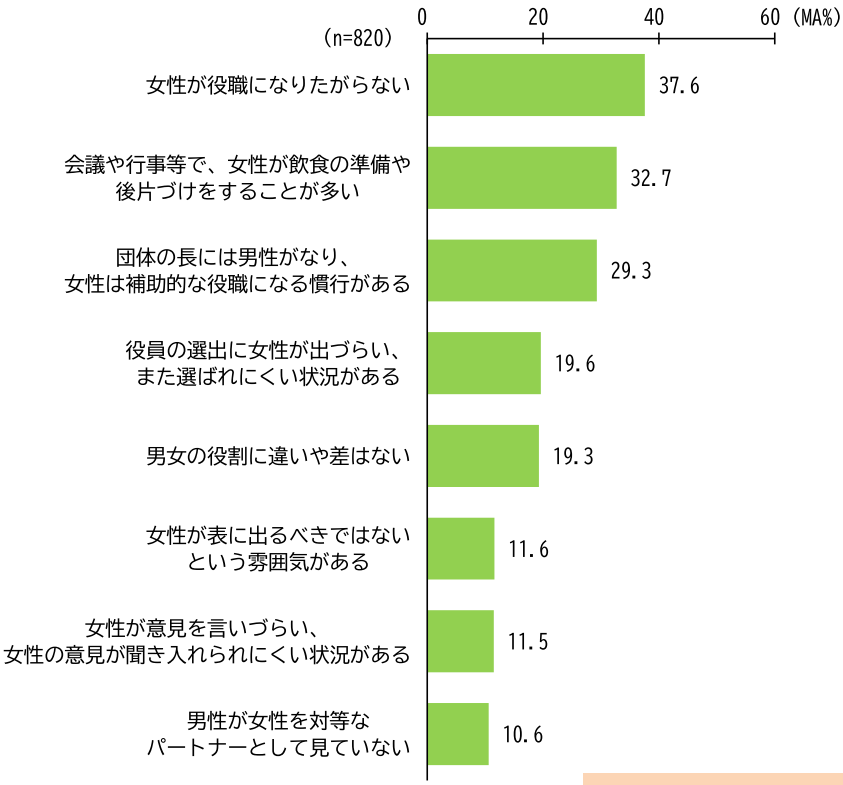
周囲の大人は自分自身の固定観念や無意識の思い込みに気づき、性別にとらわれないかかわり方をすることが求められます。

5. 地域の生活

●地域活動で男女が対等に意見を出し合い、活動を担うことが大切

地域活動においては、「女性が役職になりたがらない」、「女性が飲食の準備や後片づけをすることが多い」、「団体の長は男性で、女性は補助的な役職になる慣行がある」などをあげる割合が多くなっています。約２割の人は「男女の役割に違いや差はない」と回答しているものの、地域活動において男女の役割に偏りがあります。

■地域活動における男女の役割■



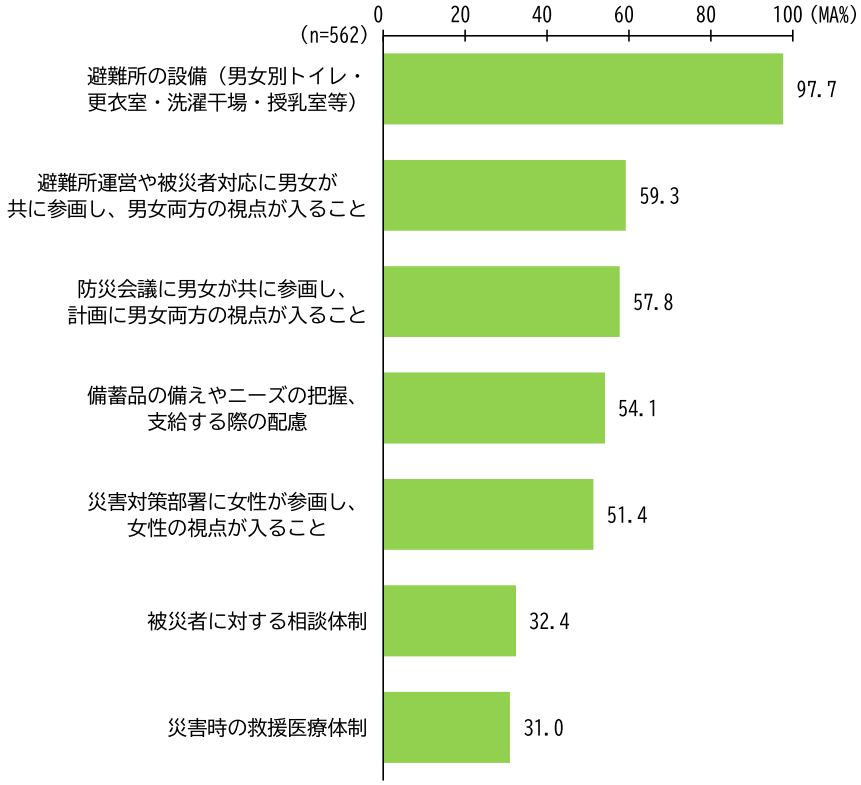
自治会等の活動においては、多様な住民が意見を出し合って進めていくことが誰にとっても暮らしやすい地域をつくることにつながります。

自分たちが暮らしやすい地域にするためには、誰もが対等な立場で意見を出し合い、責任も分かち合うことが必要です。性別にかかわらず、協力し合ってともに地域を担っていきましょう。

●防災・災害復興対策における性別に配慮した対応の必要性とその内容

災害対策において「性別に配慮した対応が必要だ」と思う人は約７割を占め、必要な対応では、「避難所の設備、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」や「防災会議に男女が共に参画すること」などの割合が多くなっています。

■災害対応に必要なこと■



災害時には社会的に弱い立場にある人々（女性、子ども、高齢者、障害のある人、外国籍の人など）がより多くの影響を受けます。その中でも男女共同参画の視点に立ってみると、男女のニーズの違いが考慮されていない、女性の性暴力被害が発生するなどの課題があります。誰もが安心できる避難所となるよう、多様な市民の声を反映して、運営体制等の仕組みづくりに取り組みましょう。

【日頃からできることをやっていきましょう】

食品や防災用品を備えたりするほかにも、いざという時のためにできることを考えましょう。

●一人ひとりができること●

・家の中の安全確認
（家具の固定・土のうの準備など）
・家族で避難方法や連絡方法を決めておく
・地域の活動に参加して顔見知りになる
・地域の防災訓練に参加する

●地域でできること●

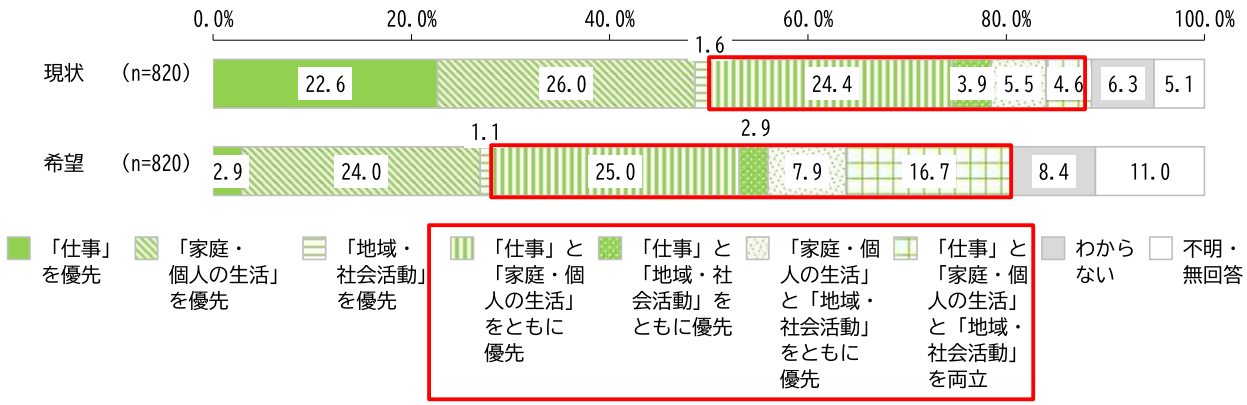
・ふだんから地域の会議で男女双方が意見を出しやすいように取り組む
・地域で支援の必要な人について情報を共有しておく
・避難所運営のシミュレーションゲームなどを地域で実践する
・避難所運営の責任者に男女両方を配置する

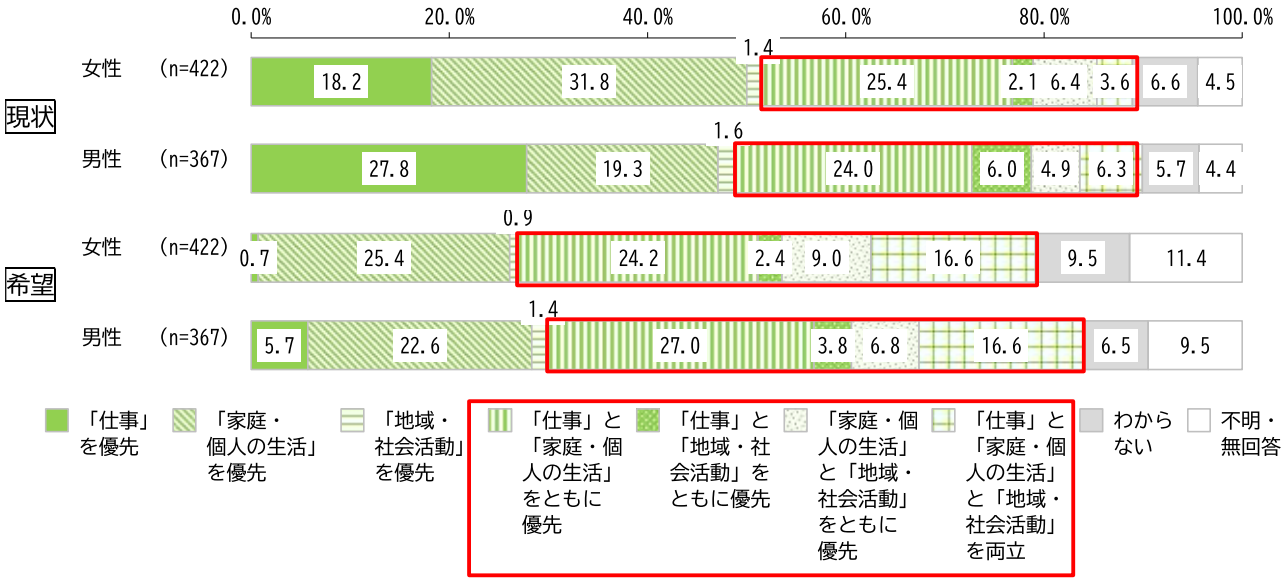
●生活のバランスの現状と希望

生活の中での「仕事」、「家庭・個人の生活」、「地域・社会活動」の優先度の現状と希望について、現状では仕事または家庭・個人の生活の１つを優先している人の割合が多いですが、希望では複数のことを優先したい人の割合が多くなっています。

性別でみると、現状の優先度は、「女性は家庭」を、「男性は仕事」を優先する傾向です。希望では「男女とも複数のことを優先したい」人の割合が多くなっています。

■生活の中での優先度の現状と希望■





【ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）】

ワーク・ライフ・バランスとは「働くすべての方々が、『仕事』と育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動といった『仕事以外の生活』との調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方」のことです。仕事は、暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらすと同時に、家事・育児、近隣との付き合いなどの生活も暮らしには欠かすことはできないものであり、それぞれの充実があってこそ生活の満足度が高くなります。

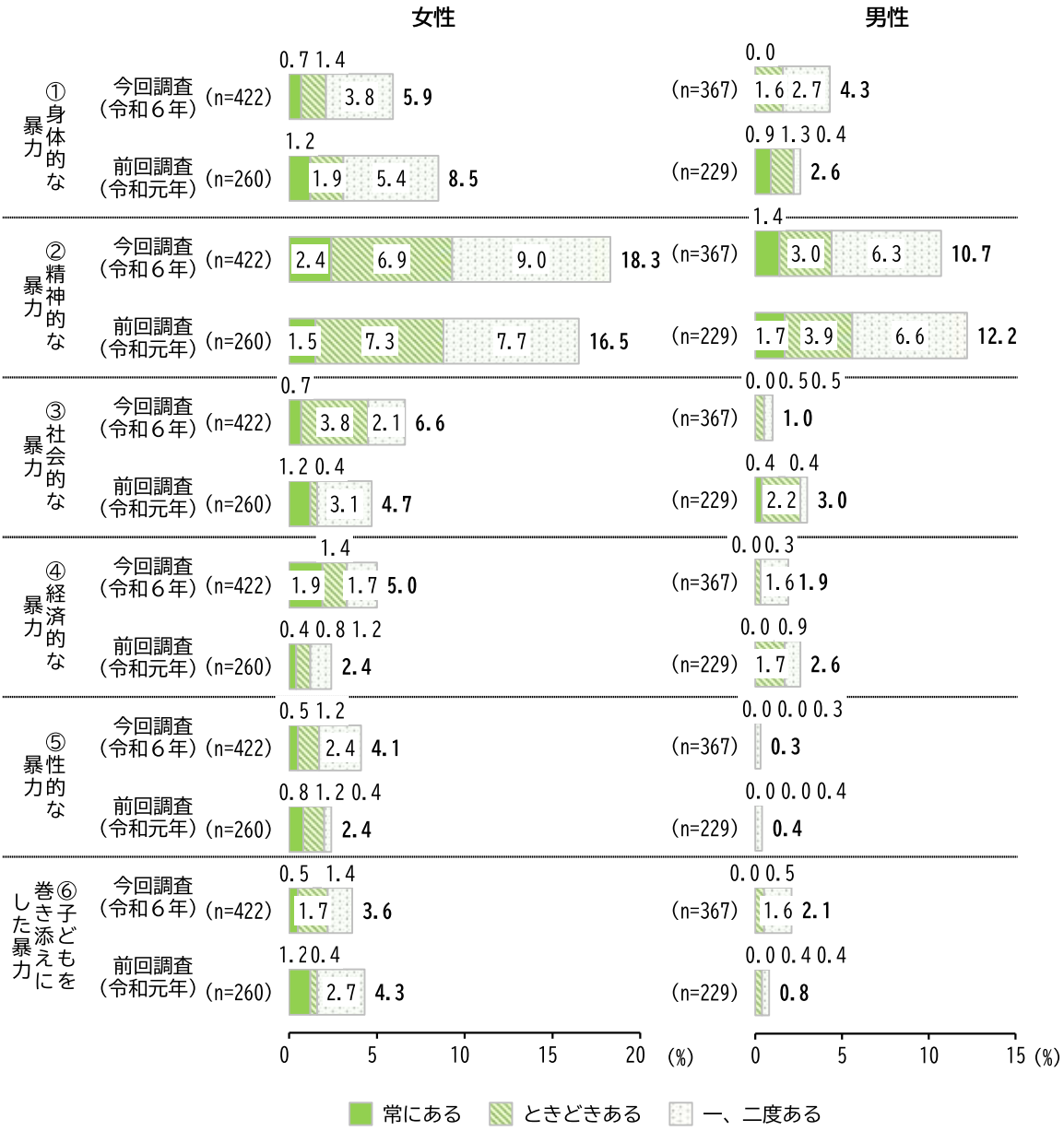
誰もがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会づくりが求められています。

6. 性にもとづく暴力について

●過去3年間にドメスティック・バイオレンス（DV）に当たる行為を受けた経験の有無

いずれの形態の暴力も男女とも過去３年間に受けた経験のある人が存在しますが、その割合は男性より女性の方が多くなっています。

■性別　過去３年間のドメスティック・バイオレンスの有無■



【暴力の種類】

■身体的な暴力■
- なぐる・たたく・ける
- 物を投げつける　など

■精神的な暴力■
- 大声でどなる、おどす
- 何を言っても無視する　など

■社会的な暴力■
- 外出を制限する
- 行動を監視する　など

■経済的な暴力■
- お金を借りても返さない
- 貯金を勝手に使う　など

■性的な暴力■
- キスやセックスを強要する
- 避妊をしない・中絶を強要する　など

■子どもを巻き込んだ暴力■
- 子どものいる前で暴力をふるう
- 子どもに危害を加えることをほのめかす　など

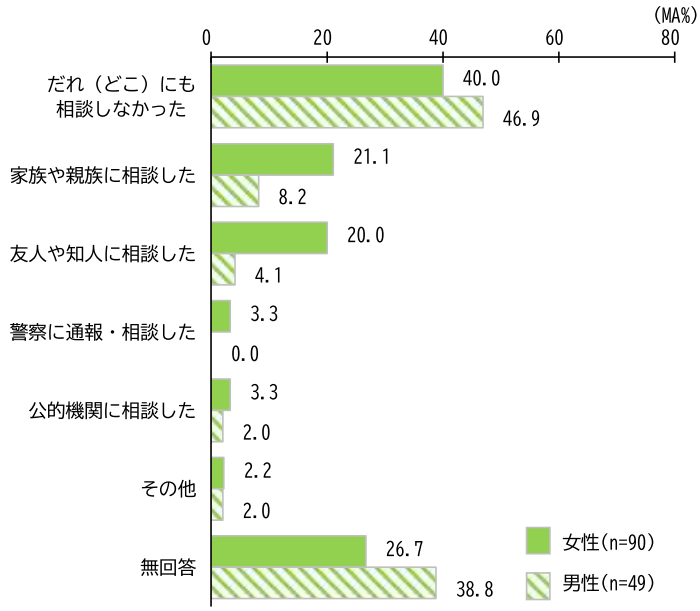
★あなたがされて怖いと思うことはすべて暴力です。

●ドメスティック・バイオレンスにあたる行為の相談

男女とも「だれ（どこ）にも相談しなかった」と回答した人が最も多くなっています。

女性は「家族や親族に相談した」「友人や知人に相談した」がそれぞれ約２割となっていますが、男性ではいずれも１割以下で少なくなっています。一方で、男性は「だれ（どこ）にも相談しなかった」と「不明・無回答」が女性よりも多くなっています。

■性別　ドメスティック・バイオレンスを受けた際の相談先■

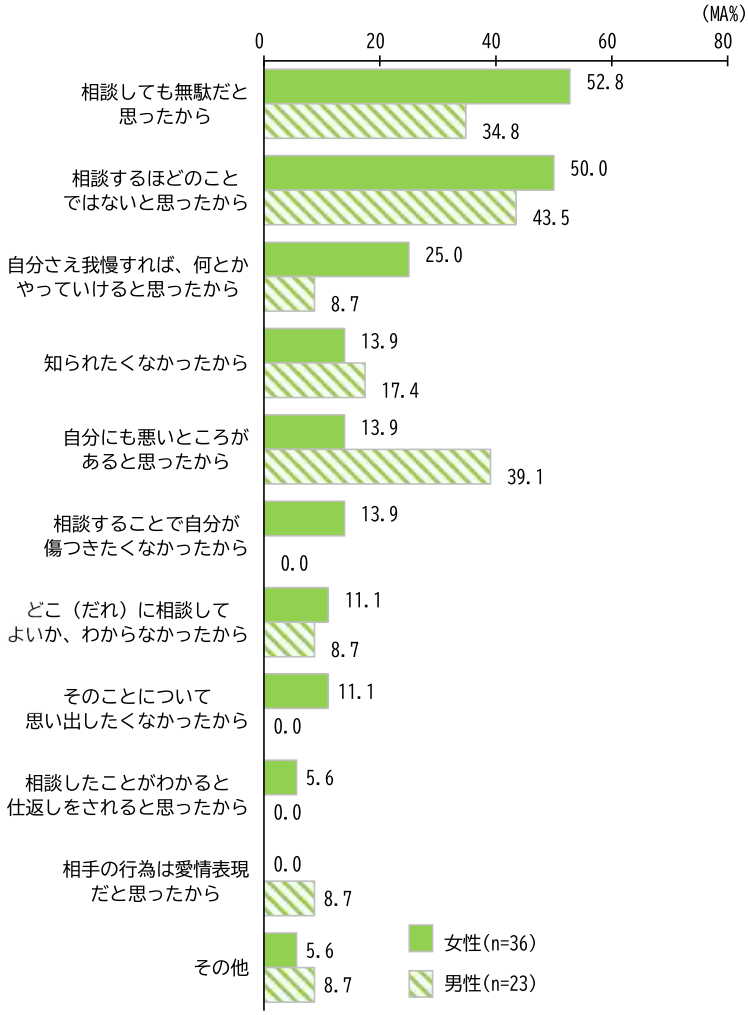


相談しなかった理由は、女性は「相談しても無駄だと思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」がそれぞれ約５割を占めています。男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」が約４割で女性よりも多くなっています。

また、男女それぞれ約１割が「どこ（だれ）に相談してよいか、わからなかったから」と回答しています。

誰もが相談しやすい窓口の周知が必要です。

■性別　ドメスティック・バイオレンスを受けた際に相談しなかった理由■



【パープルリボン運動】

パープルリボンには、女性に対するあらゆる暴力をなくしていこうというメッセージがこめられています。

国連では、11 月 25 日を「女性に対する暴力撤廃の国際デー」と定めており、内閣府では、「女性に対する暴力をなくす運動」の期間（11 月 12 日～11 月 25 日）にパープルリボンにちなんで、全国各地にあるランドマークなどを、紫色にライトアップするパープル・ライトアップの実施を呼びかけています。本市では福知山城をパープル・ライトアップして啓発をしています。

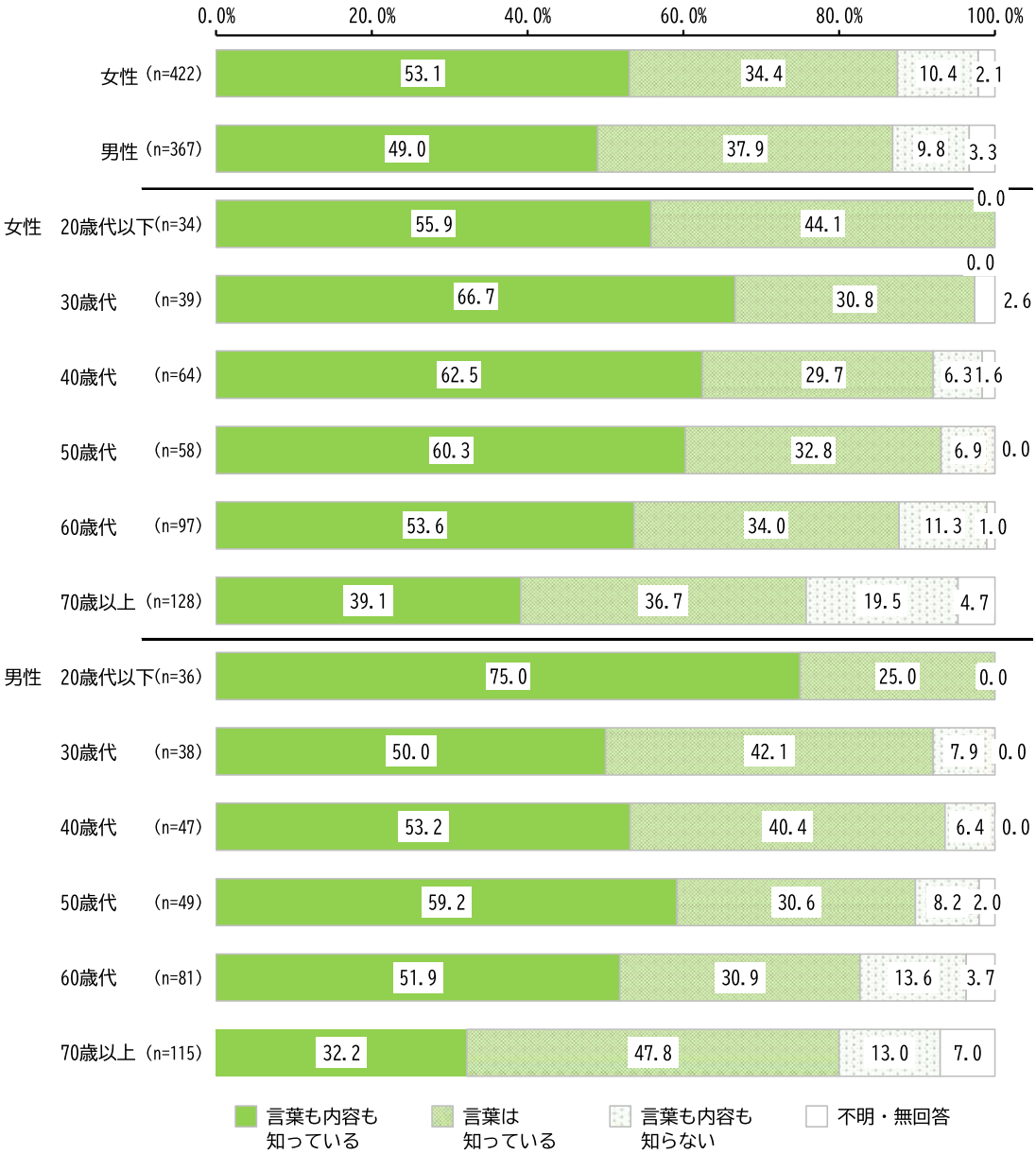
7. 男女共同参画社会について

●ジェンダー平等※3の認知は若年層が高い

ジェンダー平等について、「言葉も内容も知っている」人は男女とも約５割で、言葉は知っている人を合わせると約９割の認知率となっています。

また、男女とも20歳代以下では全員が知っていますが、年齢が高くなるほど認知度は低くなる傾向です。

■性年齢別　ジェンダー平等の認知■

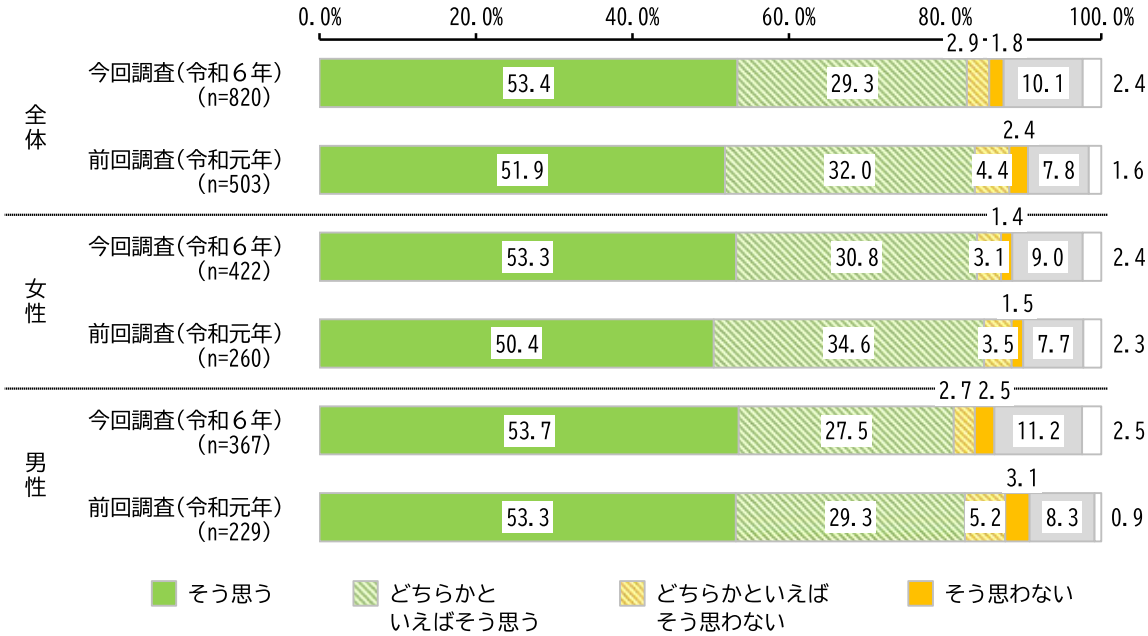


※３：ジェンダー平等：ひとりひとりの人間が、性別にかかわらず、平等に責任や権利や機会を分かち合い、あらゆる物事を一緒に決めることができることを意味しています。

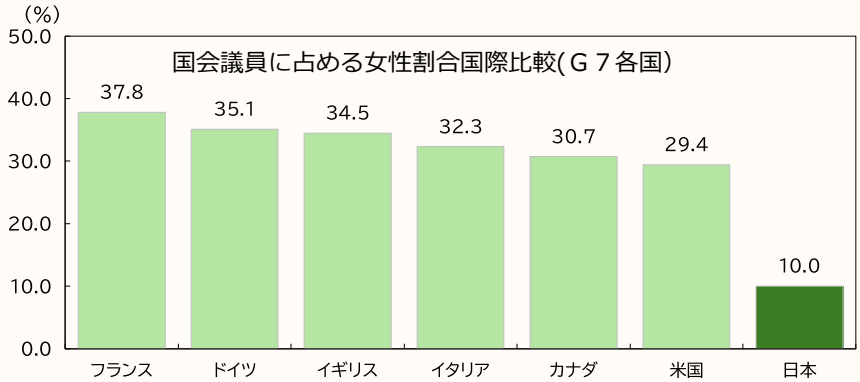
●女性の意見が政策や企業の運営にもっと反映されること

女性の意見が政策や企業の運営にもっと反映されることを肯定する人は、８割を超えています。性別による傾向の違いは少なく、前回調査ともほとんど変化がありません。

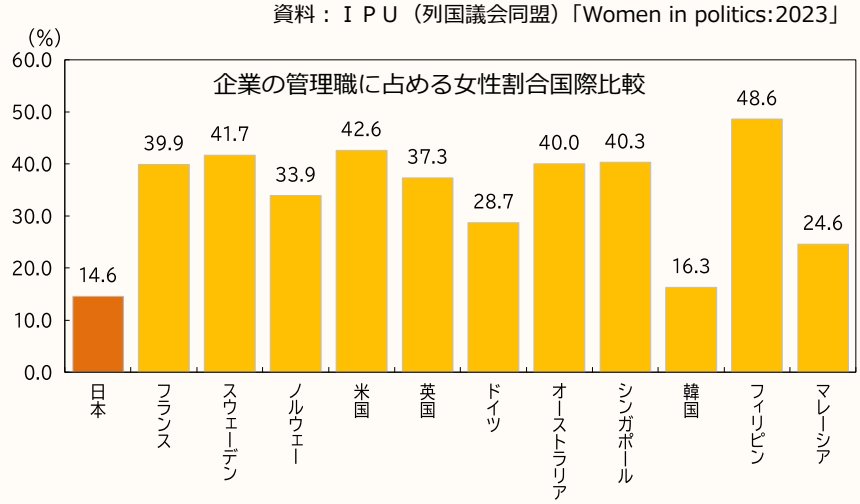
■性別　女性の意見がもっと反映されることがよいと思うか（経年比較）■



【女性の参画状況国際比較】



注）数字は下院（日本は衆議院）議員に占める女性の割合
資料：ＩＰＵ（列国議会同盟）「Women in politics:2023」

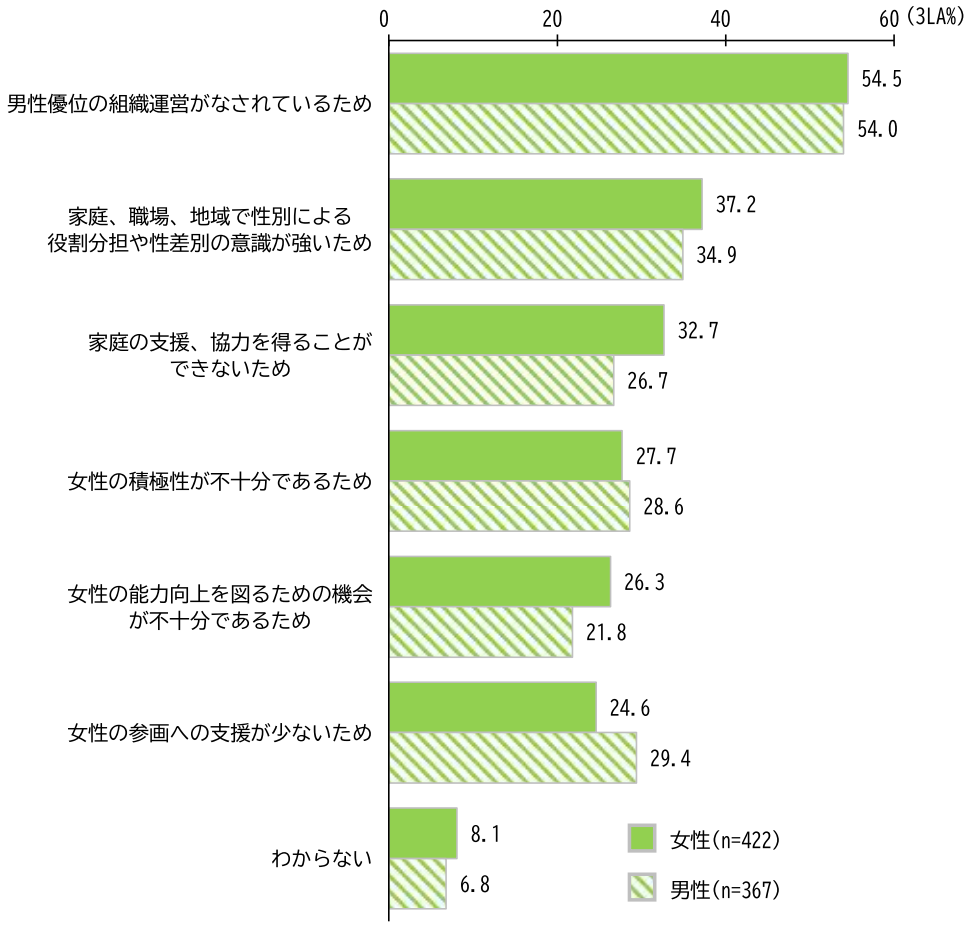


資料：内閣府「男女共同参画白書」令和６年版

●意思決定の場に女性の参画が少ない原因

政治や行政、企業の運営等において女性の参画が少ない原因として、「男性優位の組織運営がなされているため」が男女とも最も多くあげられています。次いで多いのが「家庭、職場、地域で性別による役割分担や性差別の意識が強いため」となっており、男性優位の組織や性別役割分担意識が大きな要因と考えられています。ほかにも「女性が参画するための支援」や「女性の積極性が不十分」などがあげられていますが、女性が参画しやすい状況をつくるなど様々な視点での取組が必要です。

■性別　意思決定の場に女性の参画が少ない原因■



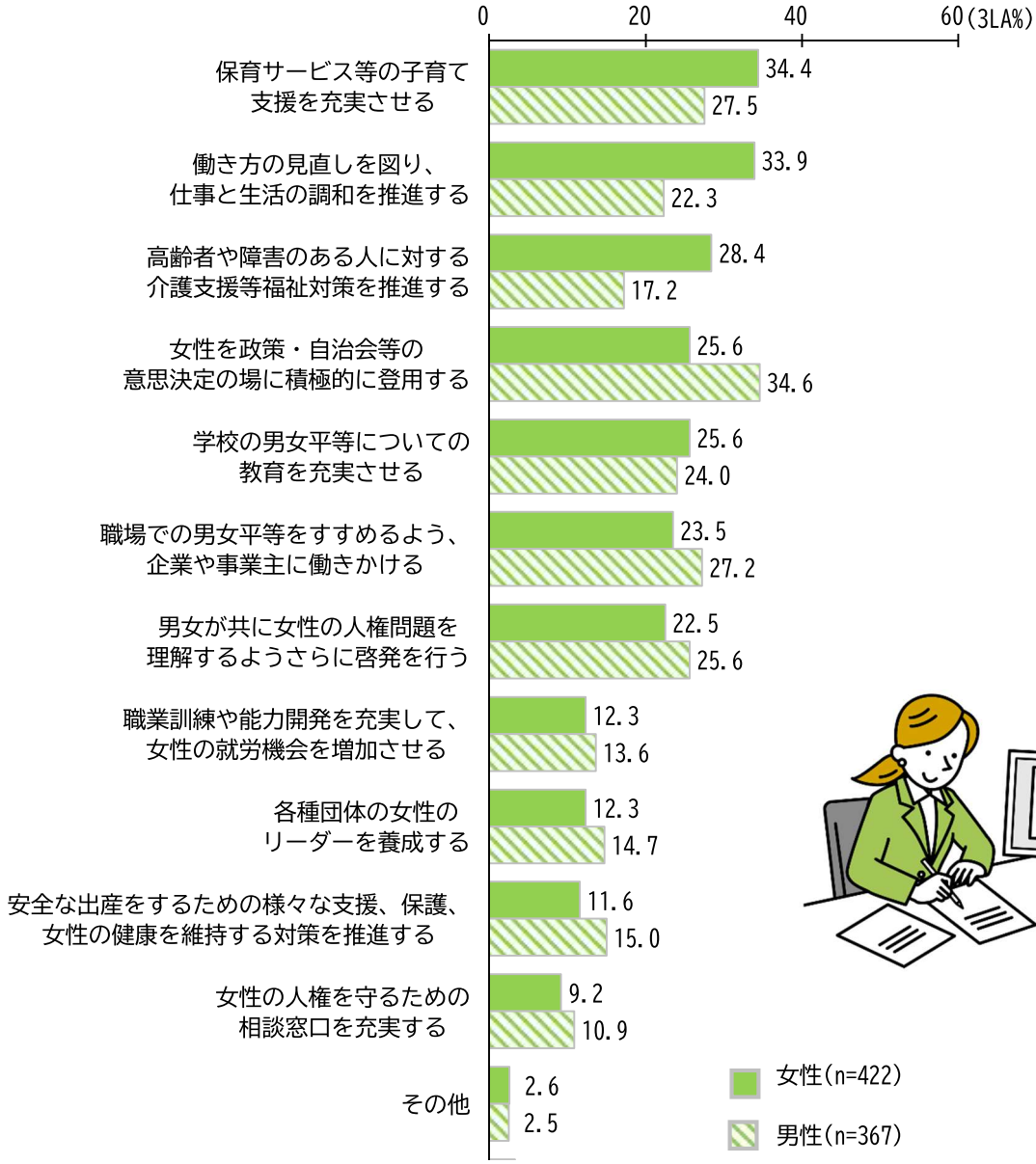
男性優位の組織運営を表す言葉として「オールド・ボーイズ・ネットワーク」があげられます。オールド・ボーイズ・ネットワークとは、組織の多数派である男性どうしで作り上げてきた暗黙の了解や慣習、人間関係のことです。男性どうしの人脈が重視され、ゴルフや飲み会など非公式の場で仕事に関係することが決まるなど、女性が人脈づくりや仕事に必要な情報から疎外されることで、昇進・昇格の機会が阻まれてきたことが指摘されています。

国では、「女性活躍・男女共同参画の重点方針 2024（女性版骨太の方針 2024）」において、「オールド・ボーイズ・ネットワークに着目した広報啓発」を行うとされています。

●男女共同社会を築くため、福知山市が力を入れていくべきこと

福知山市が力を入れていくべきこととして、女性は、「保育サービス等の子育て支援の充実」と「働き方の見直しによる仕事と生活の調和をあげる」人の割合が多く、男性では、「女性を政策・自治会等の意思決定の場に積極的に登用する」の割合が多くなっています。

■性別　福知山市が力を入れていくべきこと■



女性は男性に比べて、家事・育児の負担が大きいため、子育て支援や働き方の見直しによる両立支援を求める傾向があり、男性は女性の意思決定の場への参画を期待している傾向があります。

性別にかかわらず、ワーク・ライフ・バランスを実現し、社会の様々な場面で意見を出し合って、誰もが暮らしやすい男女共同参画社会の実現に向けて、自分のできることに取り組んでいきましょう。

福知山市男女共同参画トピックス

福知山市男女共同参画センターでは、性別にかかわらず
誰もが自分らしく生きられる社会をめざして、様々な事業に取り組んでいます。

はばたきネットワークは

団体・グループ・個人等の相互の交流及び連携を図り、共に男女共同参画社会をめざした福知山市男女共同参画計画の具現化をめざすことを目的に活動しています。

～一緒に楽しく活動しませんか！～

はばたきセミナーは

誰もが人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いつつ、個性と能力を十分に発揮することができる「男女共同参画社会」の構築のため、市民に向けて啓発することを目的として学習機会の場を設けています。

あなたや団体のパワーを男女共同参画に活かしてみませんか？

はばたきフェスティバルは

男女共同参画社会の実現に向けた情報の交換や交流を図ることでさまざまな世代の理解を深め、すべての人が幸せを実感でき、自分らしく生きられる社会の実現をめざすことを目的として、市民団体等と協働し、実行委員会を組織して、年１回講演会等を開催しています。

パープルリボンは

パープルリボンは、暴力の被害者にとって世界を安全なものとすることを目的として、アメリカで生まれたものです。

現在、40カ国以上の国際的なネットワークに発展し、「女性に対する暴力をなくす運動」のシンボルとして使われており、「女性への暴力を許さない！」という強いメッセージを発信しています。

令和６年度福知山市男女共同参画に関する市民意識調査報告書　概要版
令和７（2025）年３月発行
福知山市地域振興部人権推進室　男女共同参画センター
〒620-0035　福知山市字内記 100 番地
【TEL】0773-24-7022（直通）　【Email】jinken@city.fukuchiyama.lg.jp